

デジタル・防災技術ワーキンググループの進め方

※現時点の案であり、今後変更の可能性あり

未来構想チーム（全4回）

- デジタルによって、防災が目指すべき最大限の未来を構想するためには、最先端の知見を有する各有識者から発表を行っていただき、それらの知見をとりまとめることが有効。
- また、各有識者からの発表で得られた知見を基に、現場のニーズを掘り下げ、地方公共団体等の意見も取り入れながらブラッシュアップさせていく必要がある。
- このため、以下の工程でチームでの検討会を開催する。

【12月～4月】 有識者からの意見聴取（1回あたり1～3名程度）

【1月～4月】 ニーズの掘り下げ（自治体首長・有識者 等）

【5月】
とりまとめ

チームで出されたアイデアについては、適宜両チームで共有・議論

社会実装チーム（全5回）

- 防災分野のデジタル化の問題点、システムの使い勝手や機能の向上、高度化の方向性を検討するためには、対象となる各システムについて、機能や活用状況を有識者と共有し、ボトルネックを議論していくことが必要。
- また、各システムの社会実装の促進のためには、機能向上に加えて、活用イメージを明確化することも必要であり、防災分野全体を俯瞰した上で、災害対応フェーズを踏まえた検討することが肝要である。
- このため、災害のフェーズごとに、以下の工程でチームでの検討会を開催する。

【1月】
発災直前直後
（SIP4D、
防災チャットボット 等）

【2月】
発災後の応急対応
（物資システム 等）

【3月】
復旧・復興
（被災者支援 等）

【4月】
平時の事前防災
（危険把握等）

【5月】
とりまとめ